



# やがた

## 議会だより

No. 117  
2007.7.15発行



前須賀公園相撲場で開催された東北高等学校相撲選手権大会

6月  
定例会

都市公園区域内の工場操業問題

町長・副町長の給与減額条例を否決 — 2P

第4回  
臨時会

町長50%、副町長25%で可決 — 4P

新しい議会構成決まる(第3回臨時会)

議長に昆暉雄議員を選出 — 6P

飛び出せ青春(山田高校硬式野球部) — 16P

町の考えを聞く — 8P

## 都市公園区域内の工場操業問題

## 町長・副町長の給与減額条例を否決

## 町民の理解は得られない

6月定例会は、6月12日から14日までの3日間の会期で開かれました。初日冒頭には、都市公園区域内の旧マリンパーク食堂などを貸して工場の操業をさせていた問題で、沼崎町長から謝罪（3ページ掲載）がありました。一般質問には8人が登壇し、産業振興や学校給食など幅広く町政について質問しました。町からは、都市公園区域内で操業していた工場の移転補償費の支払い責任を明確にするため、町長と副町長の給与を3カ月間減額するとしてた条例案や補正予算、それに教育委員と監査委員の同意案件など9件が提案されました。審議の結果、町長・副町長の給与減額条例については、「減額率が低すぎる」「今後の防止策が示されていない」などの反対意見があり否決されました。その他の議案については原案どおり可決されました。最終日には議員発議の意見書などを可決し、3日間の会期を閉じました。

本定例会には、旧マリンパーク食堂などを貸し出して操業させていた工場が、都市公園区域内であることが判明した問題で、工場を移転させるための費用（移転補償費）を支払う義務が生じたことに対する責任を明確にするため、町長・副町長の給与を3カ月間減額するとしてた条例案とその移転補償費の支払いを盛り込んだ一般会計補正予算案が提案されました。議会では、これに対し、町長・副町長の給与を減額するとしてた条例案は否決しましたが、工場の移転に伴う補償費を計上した一般会計補正予算案については、原案どおり可決しました。



# 町長30%、副町長15%の給料カットも

## 「減額率が低すぎる」「など反対多数

町長・副町長の給与を平成19年7月1日から平成19年9月30日までの3カ月間、町長は30%、副町長は15%減額するとした条例案は、「減額率が低すぎるのではないか」「今後の防止策が示

されていない」などの反対意見があり、起立採決の結果、否決されました。主な質疑概要は次のとおりです。

**問** 減額率を町長30%、副町長15%とした根拠は、減額率が低すぎるのではないかと。

例を参考とした。その時の減額率に町長は10%、副町長は5%上乘せした。全員協議会での説明の際に、減額率が少ないとの意見が多数とは理解できなかった。再発防止の手だてを考えているか。仕事を検証する新たな内部機関を立ち上げる必要があるのではないかと。

**町長** 今回の問題は関係課の相互チェックが機能しなかったことが大きな反省点である。チェック機能が正常化するよう、庁議で十分協議し、全職員への周知を行っていく。内部機関の立ち上げは、先進例があるかどうか含めて検討する。

**副町長** 平成15年からの賃貸借契約に携わった当時の企画財政課長、都市計画課長、水産商工課長。現在の企画財政課長、地域整備課長、産業振興課長を考えている。処分は文書訓告。

### 反対討論

■山崎泰昌 議員

この問題は、818万円もの町民の血税の無駄遣いであると言わざるを得ない。町長の施政方針で述べられた「徹底した行政改革と堅実な財政運営のもとに住民の要請に応える町政」町民により近い、町民の目線に立った町政」という立場から外れている。もつと町民の目線に立った行動を求める。

私は、町民に選ばれた立場に立っている。私を選んでくれた皆さまのため、是は是、否は否の立場を取る。

■佐藤照彦 議員

今回の問題の発端は、行政のチェック機能が働かなかったことが大きな要因である。旧物産館を貸してほしいという要望があった際にきちんとした対応をしていけば、今回のように移転補償をしなければならぬ事態は避けられた。

町長が自ら処分を受けることについては、評価する方もあると思うが、これだけでは町民は納得できないと思う。今後二度とこういうことを出さないための組織的な手だてを講じる必要がある。



工場の操業がされていた旧マリナーパーク食堂

### 都市公園区域内の工場操業問題 沼崎町長の議会での謝罪(要旨)

旧マリナーパーク食堂などを貸し出して操業させていた工場が、都市公園区域内であることが判明した問題では、議員の皆さま、町民の皆さまに多大なご迷惑をお掛けしておりましたが、その対応をめぐることは町村会顧問弁護士や県市町村課とも相談してまいりました。その結果として町として工場の移転補償費を支払う義務があるとの見解が示されたことから、会社と補償費の額について協議を続けてまいりました。

今回の事務処理の瑕疵は、陸中山田マリナーパーク(株)の清算に伴い町に弁済された、店舗・食堂の位置付けが行政財産か、普通財産か、また、公園区域内か、公園区域外か、さらに、遊休施設かどうかなどについての解釈に温度差を生じてしまったことや、企業誘致・雇用の場の拡大に対応しようとしたことによるチェック機能の不十分など、関係課の連絡・調整が十分でなく、正確な情報が伝わらなかったために生じたことであると考えております。

このことは、町長は全体的な責任者として、副町長は実務上の最高責任者として、関係課長は担当事務の責任者として、職務への対応および事務の監督が不十分であったと言わざるを得ません。

このため、本件の責任を明確にするため私を含め副町長、関係課長の処分を行うと考えてあり、今定例会には私と副町長の給料の減額条例も提出したところでありますのでご理解をお願いします。

今後は、職務と責任の重さを十分に認識し、このようなことが起こらないよう、なお一層気を引き締め、職員を指導監督し町民の福祉向上のため正確な事務事業の執行に努めてまいります。

改めて、町民の皆さま、議会の皆さまに対し、今回の問題を深く反省し、陳謝申し上げます。

## 工場移転補償費を含む818万円

## 一般会計補正予算案を可決

工場の操業ができない都市公園区域内の建物を賃していた企業への移転補償費818万円を盛り込んだ一般会計を含む4件の補正予算が提案され、審議の結果すべて原案のとおり可決されました。

今回の一般会計補正予算は、4千464万円を追加し総額6億3千589万円とするもので、企業の工場移転に伴う補償費の計上、4月人事異動に伴う人件費の調整、補助金内示による

事業費の増減、町道維持補修費および公共土木施設災害復旧工事費の増が骨子で、主なものと質疑の概要は次のとおりです。

▽企画費（旧山田病院耐震診断委託料）：263万円の増

▽商工業振興費（工場移転に係る補償費）：818万円の増

▽観光費（山田楽山楽水の郷事業費補助）：200万円の増

▽道路維持費（町単独分の

馬指野橋改修工事費）：1千万円の増

▽公共土木施設災害復旧費：852万円の増

**問** 企業から移転補償費以外の支払いを求められないよう、契約書にそのことを明記すべき。

**答** 予算の議決後に契約を結ぶことになる。これ以上の請求はしないということを契約書に盛り込む。

**問** 今回問題となった企業以外に公園を使っている事業所はどうなるのか。

**答** 国土交通省から示された都市公園の運用指針に基づき許可しており、継続して使用することに問題はないと考えている。

**問** 馬指野橋の改修工事は1千万円でできるのか。

**答** 災害復旧費の2千万円を合わせて総事業費は、約3千万円となる。町単独分の1千万円の事業費でガードレール設置、橋の拡幅を行う。



昨年の12月の低気圧による大雨災害で沈下した馬指野橋（約3千万円の事業費で本年度から復旧工事が始まります）

## 第4回臨時会

## 町長・副町長の給与減額条例を可決

町長50%、副町長25%減額3カ月

第4回臨時会が6月25日開かれました。町からは7月から9月までの3カ月間、町長・副町長の給与を減額する条例案が提案され、審議の結果、原案どおり可決されました。

6月定例会の際には、町長30%、副町長15%の減額率で提案されましたが、「減額率が低すぎる」などの反対により否決となっていました。

した。今回の提案では、減額率を、町長は20%アップの50%（月額35万2500円の減額）、副町長は10%アップの25%（月額14万1750円の減額）で再提案されました。

主な質疑概要は次のとおりです。

**問** 過去、このようにして町長などの給与を減額した例があるか。

**答** 平成11年にマリノパーク解散の際、町長、助役、収入役がそれぞれ、給料を6カ月間10%カットしている。

**問** 6月定例会で質問した、再発防止策をどのように考えているか。

**答** 今後このような過ちを起こさないようにするため、副町長を中心にした委員会の立ち上げを検討している。複数課にまたがる事業の際は、関係課の連絡調整、進行管理を十分吟味したい。

**問** 移転補償の契約は締結したか。新しい工場はいつから稼働するのか。

**答** 契約は6月21日に締結した。工場は、7月9日から稼働したい旨通知があった。

## 人事案件

### ■教育委員の任命と監査委員の選任に同意

前教育委員の川端弘行さん（6月20日任期満了）の後任として、新たに湊謙さん（63）＝船越＝を任命することに同意しました

また、議会選出の監査委員に道又秀悦さん（71）＝大沢＝を選任することに同意しました。



教育委員  
湊謙さん



監査委員  
道又秀悦さん

## 議員発議

### ■岩手県後期高齢者医療広域連合規約の改正を求める意見書

市町村や地域の意見を反映できるよう、広域連合議員を、構成団体から1人以上選出するよう求めるものです。

### ■乳幼児医療費助成制度の創設等を求める意見書

乳幼児が安心して医療を受けられるよう、国の制度として乳幼児医療費助成制度を創設するよう求めるものです。



昨年の所管事務調査の様子（教育民生常任委員会）

### ■産業建設常任委員会

- ①観光振興（宿泊施設）の施策の取り組み状況と船越家族旅行村の現状と課題について
- ②カキ殻等貝殻廃棄物の処理対策と取り組みについて
- ③企業誘致対策について
- ④柳沢北浜地区土地区画整理事業の進捗状況について
- ⑤町道及び排水施設の現状と課題について
- ⑥建設業者格付の見直しと入札制度について
- ⑦水道事業の改良整備について
- ⑧地域産業の活性化策について

## 6月定例会

# 議決議案 ダイジェスト

## 条例関係

■平成19年7月1日から平成19年9月30日までの間における町長及び副町長の給与の減額に関する条例  
都市公園区域内で操業していた工場の移転補償費の責任を明確にするため、給与を町長30%、副町長15%3カ月間減額しようとするものでしたが、否決となりました。

### ■町立幼稚園保育料等徴収条例の一部改正

平成19年度の国の改正に伴い、幼稚園保育料の減免対象が拡大されました。

### ■漁村緑地広場条例の一部改正

浦の浜地区に整備した漁村緑地広場を、漁村緑地広場条例に追加しました。

## 予算関係

### ■一般会計補正予算（第1号）

4,464万円を追加。総額66億3,589万円。

### ■老人保健特別会計補正予算（第1号）

2,171万円を追加。総額18億2,565万円。

### ■漁業集落排水処理事業特別会計補正予算（第1号）

1,096万円を追加。総額1億4,313万円。

### ■公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）

309万円を減額。総額4億600万円。

## 常任委員会所管事務調査

# 19年度の調査テーマ決まる

### ■総務常任委員会

- ①行政改革推進の現状と今後の取り組みについて
- ②地域防災の課題と対応策について
- ③町財政の現状と健全な運営について
- ④第8次山田町総合発展計画の進捗状況について
- ⑤町税収納の現状と課題について
- ⑥収納対策室の現況等について
- ⑦消防署と消防団の連携について
- ⑧消防団の現状と課題について

### ■教育民生常任委員会

- ①介護保険の現状と課題について
- ②社会福祉施設の管理運営について
- ③町民の医療と健康について
- ④国民健康保険事業の運営について
- ⑤環境、廃棄物処理、リサイクルについて
- ⑥学校教育施設の管理運営について
- ⑦中高連携教育について

新しい議会構成決まる

議長に昆暉議員を選出

町議会議員選挙後初めての本会議となる第3回臨時会が5月8日開かれ、議会は、議長、副議長の選出や各常任委員会の構成など向こう4年間の新たな体制を決定しました。町からは町税条例の一部改正、一般会計補正予算などの専決処分を承認する議案など9件が提案され、審議の結果、原案どおり決まりました。

無記名投票により  
議長・副議長選挙

議長・副議長選挙は、議員全員による無記名投票で行われました。議長選挙では、昆暉議員が10票、佐々木良一郎議員が6票、佐藤照彦議員が1票となり、昆暉議員が当選しました。続く副議長選挙では、生駒利治議員が10票、佐々木良一郎議員が7票となり、生駒利治議員が当選しました。

各常任委員会委員  
宮古広域議員なども決定

続いて議会は、各常任委員会（定数は各6人）の構

成（7人に掲載）も決定しました。各委員の選任に当っては、各議員の希望を議長が調整して決定。委員長、副委員長については、委員会の互選により決定しました。

また、議会運営委員会委員（定数6人）と宮古地区広域行政組合議会などに派遣する議員には、次の方々を選出しました。

- 議会運営委員会  
委員長 佐々木 良一郎  
副委員長 三ヶ尻 隆雄  
委員 小林 隆  
委員 稲川 勝憲  
委員 阿部 幸一  
委員 吉川 淑子

- 宮古地区広域行政組合議会議員  
・佐藤 忠暉

- ・阿部 幸一
- ・吉川 淑子
- 岩手県沿岸知的障害児施設組合議会議員  
・佐藤 照彦

国保の課税限度額の引き上げなど町税条例を改正

地方税法の一部改正に伴い、町税条例が改められました。これは、最近の経済・財政状況などを踏まえ、持続的な経済社会の活性化を実現するため改正されるもので、主な改正内容は次のとおりです。

◆市町村民税

法人課税信託の引き受けを行う個人、または、法人でない団体・財団についても法人税を課税。

◆固定資産税

住宅のバリアフリー改修（30万円以上）に係る特例措置を創設。

◆国民健康保険税

課税限度額を56万円（現行53万円）に引き上げ。

平成18年度の最終補正を承認

一般会計に9千300万円を追加するなど、平成18年度の最終となる補正予算が提案され、審議の結果すべて原案どおり承認されました。

今回の補正により、一般会計の最終予算額は68億2,290万円となり、当初予算額と比較すると2億9千679万円増となりました。



昆 暉 議長



生駒 利治 副議長

# 新常任委員会の構成



副委員長  
佐藤 忠暉



委員長  
道又 秀悦

## 総務常任委員会

▶ 担当する課  
総務課、企画財政課、  
税務会計課、消防防災課



委員  
生駒 利治



委員  
佐々木 良一



委員  
吉川 淑子



委員  
鈴木 善十郎



副委員長  
小林 隆



委員長  
木下 志生子

## 教育民生常任委員会

▶ 担当する課等  
保健福祉課、住民生活課、教育委員会



委員  
昆 暉雄



委員  
佐藤 照彦



委員  
豊間根 信



委員  
稲川 勝憲



副委員長  
三ヶ尻 隆雄



委員長  
山崎 幸男

## 産業建設常任委員会

▶ 担当する課等  
産業振興課、地域整備課、水道事業所



委員  
黒沢 一成



委員  
山崎 泰昌



委員  
佐々木 良一郎



委員  
阿部 幸一



大浦小学校の学校給食の様子



鈴木善十郎議員

## 学校給食

# 学校給食を導入すべき

## 「愛情弁当」の考えに変更はない

### 質問

学校給食法第1条には、学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資し、かつ、国民の食生活の改善に寄与するものであることにかんがみ、学校給食の実施に関し必要な事項を定め、もって学校給食の普及及び充実を図ることが明記されています。また、平成17年に成立した食育基本法の第20条では、学校、保育園などにおける食育の推進で、学校給食等の実施を明記しております。以上の法律を踏まえて、学校給食を導入すべきではないか。

### 松尾教育長

「学校給食法」及び「教育基本法」を踏まえて、学校給食を導入すべきであるとのことですが、山田町の基本的な考えは、従来、親が子どものために、一生懸命作ることが親と子の基本になるのではないか、それが命を大切にすることに繋がっているのではないかと考えている。

## 町の考えを聞く

あり、家庭でつくる弁当を基本としている。そして、「愛情を込める親の願いの弁当」によって、親と子の

絆が一層深く強くなることを願っており、従来の考えに変更はありませんので、ご理解願いたい。

### 障害者支援

## 障害者の差別をなくす啓蒙活動

## 環境づくりが重要

### 質問

身体・知的・精神障害者の当事者や家族の話では、かなり差別があると聞く。まず、山田町から、障害者の差別をなくすための啓蒙活動をしてもらいたい。

### 沼崎町長

障害者から見た場合、社会生活の中で、健常者が意識しないようなことでもさまざまな障壁が存在しているものと思う。中でも情報へのアクセスなど必要な情報が得られないため、社会参加の機会を逸したりすることなどが考え

られるが、障害者でありながらも健常者と同じ生活ができるような環境づくりが重要である。

### 質問

障害者の雇用の促進の体制は。

### 沼崎町長

障害者相談支援事業の受託者である社会福祉法人若竹会で「宮古圏障害者支援センター」はあつるセンターみやこを本年4月に開業し、障害者の相談内容を見極めながら、ハローワークと連携し就労支援に努めている。





延長整備が望まれる「町道織笠外山線」



稲川勝憲 議員

## 建設行政

# 町道織笠外山線の延長整備

## 財政状況が厳しく難しい

**質問** 町道織笠外山線の整備は山田高校前から礼堂の館神地区までの1・5キロは未整備となっている。

この路線は、中高生の通学路ばかりでなく県北バスの走行や馬指野、田子の木外山地区などから国道45号線へ接続する路線であり、また、山田斎場へ通じる重要路線である。

は、整備の計画が盛り込まれていないようであるが、計画の見直しを行い未整備地区の解消を図る必要があると思う。

① 整備計画にないのはなぜか。

② 補助事業として採択される見直しはあるか。

③ 県代行業業により国道45

号から山田高校までは、平成17年度に完成している。山田高校から礼堂までの区間についても改良整備の必要性は十分認識はしているが、現下の財政状況では、早期に計画することは難しい状況にある。

② 補助事業の採択も同様に厳しい状況にあることを理解願いたい。

## 水産振興

# ナマコ増産の取り組み

## 漁協で行う資源調査に町も協力

**質問** 本年度、県北・沿岸振興のため、県が新たな事業として「中国で高級食材として需要の高いナマコの養殖技術の確立に取り組み、将来的に安定生産し、加工した干しナマコを海外

に輸出、漁業者の所得向上につなげる。稚ナマコの量産化は大船渡市にある県栽培漁業協会へ委託し10万個の生産を目指す」との報道があった。

本町でもナマコを増産するため、町内漁協と協力しながら、漁場の調査、放流試験や漁法・漁具の改良に取り組み考えはないか。

**沼崎町長** 本町では、大浦漁協と船越湾漁協が県と連携して資源調査の予定であり、町も協力する。

放流試験については、県栽培漁業協会での種苗量産技術の確立に負うところが大きく、種苗配布を受けられるか未定である。漁法、漁具の改良については、放流効果の検証に合わせて取り込む課題と考えている。

## 町の考えを聞く



ナマコ漁の様子（大沢浜川目海区）



危機意識を持って各種の行財政改革が進められています（町役場）



阿部幸一議員

## 行政改革

# 特別職報酬の3割削減を

## 「特別職報酬等審議会」の答申どおり削減

**質問** 厳しい町財政を考え、特別職の報酬を3割前後削減する考えはないか。

**沼崎町長** 平成16年1月から本年3月まで、町長は月額10%、副町長・教育長は8%、議長は月額7千円、副議長6千円、議員は5千円の減額をしてきた。

この減額は1年ごとに条例を制定し行ってきたが、

根本的な引き下げとするため、本年1月に「特別職報酬等審議会」に諮問し、答申されたとおり引き下げを行っている。

**質問** 町長の言う「キラリと光る町づくり」を自立して行っていくためには、思い切った行財政改革をすべきではないか。町民にもっと分かりやすい改革を

## 町の考えを聞く

推進すべきと思うかどうか。  
**沼崎町長** 平成12年に私が就任してから、新たに見直しを行い、行財政改革を

いろいろ進めてきた。その中で、特別職報酬の見直し、管理職手当の削減、寒冷地手当の廃止、職員数の削減などを行ってきた。手を付けてこなかった訳ではない。危機意識を持ち行財政改革を進めてきた結果、一定の成果として現在があることは理解願いたい。

## 環境整備

# 豊間根地区の排水路整備

## 当面は維持補修の範囲で対応

**質問** 豊間根地区では合併処理浄化槽を設置したくても、放流先がなくてできない状況である。放流先についてどのような考えを持っているか。

**沼崎町長** 快適な生活を

送るためには、合併浄化槽の設置もそのひとつで、放流するための排水路が必要となる。豊間根地区の整備となると現在の厳しい財政状況では、早々に側溝の整備を推進することは難しい現状にある。当面は維持補

修の範囲で対処していきたいと思っている。

**質問** 第8次町総合発展計画に盛り込むことができないか。また、町長の決断により、起債を使って実施することができないか。

**川村副町長** 計画策定の際に議論したが、豊間根地区は広範囲であることから、基本的な検討が必要とのことで、8次計画には間に合わなかった。問題意識は持っており、今後の課題として検討していく。



歩道の設置などの整備が検討されることになった駅前の町道



木下志き子議員

## 環境整備

# JR山田駅前の美化・整備を

## 必要性は感じており検討したい

### 質問

① JR山田駅前周辺の美化と併せ、町の顔としての駅周辺の整備をどのように考えているか。

② 下水道工事の進捗状況はどうなっているか。

### 沼崎町長

① 山田駅前の交通状況などについては、児童生徒などの通行の安全、災害時の避難通路として、道路の拡幅あるいは歩道の整備の必要性は、十分感じている。整備をするとなると、関係地権者の理解と協力を得なければならぬ。どのような整備の仕方がよいのか検討してみたいと考えている。

② 山田地区の下水道整備の全体面積は、219・6畝である。現在、県の認可を受けている第1期整備区域は、75・6畝で、事業費は、管渠整備が約29億円、処理場建設費が約17億円の計46億円である。

## 町の考えを聞く

進捗状況は、事業費ベースで、平成18年度末で11・7%となっており、平成27年度の供用開始を

目指している。平成19年度は、中央町、川向町、八幡町地区の管渠整備を実施する。

## 疾病対策

# 麻しんなどの集団感染対策

## 予防接種などの啓発を行う

### 質問

マスコミなどで、麻しん・百日せき・インフルエンザの集団感染が報道されている。町としてどのような対策を考えているか。

### 沼崎町長

麻しん・百日せき・インフルエンザは、

ウィルス性の感染症であり、広範な対策が必要である。町では、さまざま感染症を予防するため、就学前の児童などを対象に個別および集団による予防接種を行っている。

厚生労働省から「麻しん

の流行について（注意喚起）の通知を受け、町内の保育所、児童館、放課後児童クラブなどに対し、「麻しん患者発生時の対応マニュアル」に基づく対応を周知した。麻しん・百日せき・インフルエンザは、咳や高熱を伴う合併症として、肺炎や脳症などが懸念されることから、予防接種の勧奨などの啓発を行い、万が一、発生者がたときは、嘱託医や関係機関と連携し感染拡大の防止に努める。



同じ目線で対話・相談ができるよう窓口カウンターを低くする改善がされています(税務会計課)



豊間根 信議員

## 行政改革

# 行政サービスの更なる改革を

## さらに町民満足度の高いサービス目指す

**質問** 多種多様の行政サービス向上が求められ、そのサービスの格差が地方自治体の格差を生んでいる。財政難ではあるが費用をかけるに町民に対してできる事は、各担当課での誠実な対応と窓口サービスである。今まで以上に、スピーディーで誠実な対応を行い、来庁される皆さまに喜ばれ

るさらなる改革案はあるか。  
**沼崎町長** 限られた行政の中で、町民に満足してもらえぬ窓口サービスの充実を図ることは重要なことである。  
行政の仕事は法令に基づき行っており、すべてが住民の希望どおりいくと限らないが、職員の努力により仕事の印象を好ましい方向

## 町の考えを聞く

へ変えることは可能である。そのことが住民の理解と信頼を得、行政サービスの向上につながるものと考えてる。

**質問** その具体案は。  
**沼崎町長** 職員一人ひとりの意識改革や接遇の向上に努める。分かりやすい案内板の設置や窓口カウンターの低くし、同じ目線で対話・相談ができるよう改善を図っている。今後、職員の研修を充実し資質の向上を図り、満足される行政サービス向上に努める。

## 住民協働 官民協働による地域活性化を 積極的な住民参加が必要

**質問** 全国的に地域力の活用による官と民の(産学官民)協働という言葉が行政資料・マスコミなどに取り上げられ、官民の協働における上下関係のない真のパートナーシップ無くして地域の活性化を考えられない状況になっている。  
本町では、NPO、民間団体、地域住民との協働についてどのように取り組んできたか。

**沼崎町長** 昨年4月に総務課内に新たに「住民協働

推進室」を設置し、12月には住民協働を具体的に進め支援していくため、住民協働推進計画策定委員会を立ち上げ「山田町住民協働推進計画」を策定した。  
**質問** 指定管理者制度におけるその受託者(NPO法人、地域住民団体、企業を含む法人など)を協働の相手先と考えているか。  
**横田総務課長** NPO法人、地域住民団体、一般企業などを官民協働の相手先としてとらえている。



本年度、織笠地区でもソバの作付けなど遊休農地の活用が行われます（轟木地区）



佐々木良一郎議員

## 遊休農地活用

# 「農地付き宅地」の売買の状況は

## 希望する相談や農地移動はない

**質問** 団塊の世代の定年退職が始まった。2005年国勢調査によると県内の団塊世代は約6万9千人で試算ではこの人達が受け取る退職金は全国で36兆円超、県内だけでも約5千億円以上だと聞く。県職員の退職者は346人で、退職金は昨年より10億円以上多い総額97億5千万円が支給されたようだ。

昨年12月議会で「団塊世

代の退職者を受け入れる方法として、農地付き宅地の売買ができるように」との質問に、農用地以外の遊休農地を活用の場合は可能との答弁であった。その後どのように進めているか。

**沼崎町長** 「農地付き宅地」を農業振興地域内に求める場合は、農用地以外の農地であれば一部を宅地とすることは可能であると答えているが、現在までのと

ころ、新規に農地付き宅地を希望する相談はない。また、そのような農地の移動事案もない。

**質問** 本町の遊休農地は県内でも多い方だ。新たな活用方法を考えるべきだ。

**沼崎町長** 本年度、織笠地区でも遊休農地対策としてソバの作付けを行うことになっており、町、町農業委員会でも前向きな取り組みが進んでいる。

## 総務行政

# 長崎・大畑地区へのバスの運行

## 収支バランスを考えると厳しい

**質問** 山田病院の新築移転により、通院が遠くなった地域、長崎・大畑方面に岩手県北バスか町内タクシー業界にお願いし、定時（期）のバス運行を行うことができないか。

**沼崎町長** 現在町内を運行している路線バスは、定期バス路線代替バス等の運行を町が県北自動車株式会社に委託し、その費用の一部を支払っている。

新たに路線バスを運行す

る場合や路線の変更を行う場合は、所有バス台数の確保、収支の見込み、運賃、既存の運行系統の調整などの事業計画書を作成し国の許可を得ることが必要である。従って、業者との協議が必要であり、収支のバランスを考えると厳しい。

**質問** タクシー業者と相談し、小型バスを活用することができないか。

**沼崎町長** 地域の需要、経費の節減などを考え、提起された内容は、これからの宿題として検討していく。

## 町の考えを聞く



定期路線バスの乗り入れが行われている県立山田病院



体験型観光「マリン・ツーリズム山田」の活動の様子（山田湾）



山崎泰昌議員

## 水産振興

# 水産業の主體的な政策

## 行政は側面からの支援が基本

**質問** 現在の水産行政は、各漁協の要望や意見に対し、町の立場だけを考え、協力する・援助するという答えしか見えてこない。基幹産業である水産業に対し、町がイニシアチブを取って実施してきた政策はあるか。

と考えている。実施してきた政策は、漁業集落環境整備事業、後継者育成、グリーン・ツーリズムの推進などであり、平成19年度には地域営漁計画の策定支援を行うなど、多岐にわたっている。

**質問** アワビの中間育成をやめた理由は。内田水産振興主幹 種苗センター時代の技術を各漁

協に移転し、種苗を放流できるまでになった。また、県栽培漁業協会で安価な種苗を生産している。

**質問** 所得向上のため、アワビの放流事業への援助を考えているか。

**内田水産振興主幹** 自ら経費を負担できる水揚げをする企業的な考えが必要である。いつまでも補助金に頼って行う事業ではない。

## スポーツ振興

# 冬期でも活動できる暖房装置を屋内競技には必要ない

**質問** 「教育振興基本計画」で競技スポーツの振興、スポーツ活動の推進を示しているが、町の姿勢からは、計画性・積極性がみられない。冬期でも活動でき、各種競技大会を開催できるよ

う、最低限、山田中学校と船越小学校に暖房装置を整備し、スポーツ愛好家の後押しをする考えがあるか。

**松尾教育長** 屋内競技については、競技者のための暖房装置の必要性はないと

考えている。

**質問** 厳しい社会状況の中で子育てしている親は、共働きや変則的な時間での就労を余儀なくされている。また、核家族が進み、地域活動、PTA活動など、時間に追われる日々である。父兄の精神的、肉体的負担を軽減するため、「支払は前払いで希望者だけの給食デリバリーサービス」に取り組む考えはないか。

# 密殖の解消で品質向上

## 地域営漁計画づくりで提案



佐藤照彦議員

質問

- ① 貝殻による漁場整備事業の積極的な推進を図っていただきたいがどうか。
- ② 船越湾漁協でプラスチック船の廃船処理対策をやるうとしてしている。県にも働きかけ、町としても積極的に対応してもらいたいがどうか。
- ③ 密殖の解消でカキ・ホタテの品質向上、ノロウイルス対策強化、殻付きカキのPR強化など風評被害対策を強めてもらいたいがどうか。
- ④ 耕作放棄地の復元・有効活用に町、町農業委員会

は積極的に対応してもらいたいがどうか。

沼崎町長

- ① 漁業団体の意向を確認し他県の研究成果も収集しながら検討したい。
- ② 漁協、県と情報交換しながら、町としてどのような対応が取れるか、検討したい。
- ③ 品質向上については、今年度策定する地域営漁計画において提案する。ノロウイルス対策は、今年度、国に要望する。
- ④ 農業者団体などと連携し、地域の農業担い手に遊休農地の活用を訴えたい。

教育行政

# 山田高校の学級増を

## 県に学級増を要望する

質問

山田高校の学級増を実現するための取り組みを強気に展開するべきである。町長、教育長の見解を問う。

沼崎町長

山田高校は地域に根づいた教育拠点とし

## 町の考えを聞く



進学希望者が大幅に増えた山田高校。地元高校への進学希望をかなえるため学級増が望まれます

とにより、町内中学生の山田高校への進学希望者数が増えてきた。

しかし、昨年度から山田高校の募集枠が1学級減となり進学が厳しい状況となりつつある。

また、平成19年度の本町の中学校3学年の総数が、昨年度に比べ12名ほど増となり、さらに地元進学を希望する生徒にとつて厳しい状況となる。このことから県に対して学級増、募集定員の増を要望していききたいと思っている。

て、今日まで重要な役割を果たしてきた。

昨年度より、中高連携推進事業を立ち上げ、中学校と高校の連携を密にし、お互いの魅力を引き出し合う学校づくりに取り組んだこ

明日の山田を担う



山田高校  
硬式野球部



主将 阿部 義則 くん

【目標(夢)】は  
将来、私は多くの人と  
関わり、人の役に立つこ  
とができる職業に就きた  
いと考えています。具体  
的には、学校教員になり  
たいです。そして、今頑  
張っている野球などのス  
ポーツに長く関わってい  
きたいと考えています。  
7月12日に開幕する高



目指せ甲子園！山田高校硬式野球部

校野球県大会では、甲子園を  
目指し1戦1戦頑張ります。  
応援よろしくお願ひします。  
【山田の好きなところは】  
町全体の雰囲気明るく、  
活気があるところです。特に  
秋祭りでは、町民全員で祭り  
を盛り上げるため、とても楽  
しいです。いつまでもこのよ  
うな町であってほしいです。  
【山田の未来に望むことは】  
山田町の特色を活かして、  
今以上に多くの観光客が訪れ  
る町になってほしいと思いま  
す。そのために、町の特色を  
アピールする活動に私もぜひ  
協力したいです。

皆さんで議会を傍聴しましょう

9月定例会は、  
9月4日に開会の予定です。

議員出欠表

◎病欠入院 □公務欠席  
△遅刻早退 ○自己都合

月 日	本会議種別	欠 席 者 等 氏 名
6月12日	第2回定例会	○佐藤 忠暉
6月13日	"	○佐藤 忠暉
6月14日	"	○佐藤 忠暉

新たな体制でスタート

広報編集委員決まる

新しい議会広報編集特別委員会のメンバーが  
決まりました。新たな気持ちで皆さんに読んで  
いただき、より親しまれる紙面づくりに頑張り  
ますので、よろしくお願いします。



あ  
と  
が  
き

▼6月定例会で新しい議会広報  
編集特別委員会のメンバーが決  
まりました。新人議員3人と2  
期生3人の若手中心のメンバ  
ーです。町の広報と違い年4回  
の発行ですので、議会の審議  
内容や各常任委員会の調査活動  
など、「見やすく分かりやすく」  
をモットーに皆さんから親しま  
れる「やまだ議会だより」とな  
るよう工夫してまいります▼新  
しい企画として「飛び出せ青春」  
を掲載しました。明日の山田を  
担う若者を随時紹介していき  
たいと思います。今回は、甲子園  
を目指し日夜練習に励んでいる  
山田高校硬式野球部の主将です。  
夏の大会の組み合わせも決まり、  
これからは本番。悔いのないよ  
う全力でプレーしてください▼  
私たちも野球部のチームワーク  
を見習い、分かりやすい紙面づ  
くり頑張りますので、ご愛読を  
お願いします。  
(生駒)

議会広報編集特別委員会

- 議長 昆 生
- 副議長 黒 沢 利 暉
- 委員 小 林 一 隆
- 副委員 豊 間 根 成
- 員 山 崎 泰 昌
- 稲 川 勝 信